

7 宮津市由良地区文化遺産調査 由良神社建築資料

岸 泰子

1. 概要

歴史学科では、文化遺産学コースを中心に地域貢献型特別研究 ACTR で北前船の船持や船頭を多く輩出した宮津市由良地区の特性を見いだすべく文化遺産の総合調査をおこなっている（「海の京都」の拠点・宮津市由良の北前船文化の総合調査と活用：代表 岸泰子）。今年度は、地区の建造物の悉皆調査をはじめ、地区の中心にある由良神社の建築史（建造物・建築資料）調査、文書調査、石造物調査を実施した。

本報告では、そのなかの建築史調査の一環として実施した由良神社所蔵の棟札および建築資料（図面）の調査成果を紹介する。

由良神社は、近世まで熊野十二社大権現あるいは熊野三所権現と称していた。境内には、鳥居、本殿、拝殿、神輿舎、熊野神社、社務所が並ぶ。今年度の調査では、社務所以外の建物の実測調査を実施した。今後、調書の作成や写真撮影などを行う予定である。

調査日 令和2年10月30日・11月1日、令和3年3月11・12日

調査者 岸泰子（教員）、安部萌花・上田亜美・車海里・宮田匡（3回生）

川西優帆・松岡茉陽琉（2回生）

調査内容 本殿・拝殿・熊野神社・神輿庫の平面図作成・実測および製図作業
建築資料（棟札、図面）の撮影・調書作成

2. 建築資料

由良神社には、古文書のほか建築資料も保管される。建築資料としては、棟札、境内の建物の図面がある。

【棟札】 棟札は4つの包みに納められており（1枚のみ別置〈包5とする〉）、計15枚を確認した。表1はそれを仮に整理したものである。このなかから、本ACTRの主たる目的である当地区と北前船との関係を見いだせる資料について、簡単に紹介をしておきたい。

まず、正徳元年（1711）の熊野三所権現の建立札（資料番号5）がある。旧本殿は近代になって現在の境内社熊野神社本殿として移築されたと伝わる。よって、この棟札の記述は、熊野神社の建設年代などを示すと判断される。

この棟札に書かれる工匠に着目すると、「大工 田辺引土町 水嶋弥衛門藤原宗道／同所新町 高橋重右衛門家次」（／は改行）をはじめ、大工は田辺城下町の引土町などに居住する者たちであったことがわかる。また、由良神社では宝暦5年（1755）にも修理が行われているが、この工事にも田辺住の大工が関わっている。田辺城下町の引土町や引土新町には多くの大工が居住していた（建部2006）。舞鶴市の寺社建築調査が進んでこれらの大工の実際の活動

の内容が明らかになれば、由良神社の熊野神社との比較も可能となろう。

なお、由良地区にある他の神社の棟札からも、同地区では由良神社と同じく田辺住の大工が関与していることが知られる（『宮津市史』史料編第 5 巻）。近世の由良地区は田辺藩領であったので当然といえば当然であるが、同じく田辺藩領であった宮津市の石浦地区の中路神社は宮津の野村路村の大工が造営などに関わっている。北前船の寄港地があった田辺と由良地区には特別な関係があり、それが大工の活動に影響していた可能性もある。今後の検討としたい。

また、棟札に書かれている願主に着目すると、前掲の正徳元年の棟札には願主として「瀨之地村庄屋新屋」などが挙げられる。新屋は北前船の船持である。このように造営等に北前船の船持が関わったことは、宝暦 5 年の修理時に作成された部材の寄進札（資料番号 12）からさらによく知られる。ここには新屋のほか米屋・升屋・濱崎屋など区内の船持の家が多く記載される（河森 2017）。北前船の持主らの由良神社への信仰の篤さがよくわかると同時に、由良神社が北前船関係者によって維持されてきたことがわかる資料として注目される。

【建築資料（図面）】神社には、社殿再建時に作成されたと思われる図面がある。現社殿は、昭和 12 年に再建されている（棟札）。図面形状は青焼きのほか、洋紙に手書きのものもある。ここで注目されるのが、現社殿の図面のほか、計画図（別案）もしくは旧社殿を描いたと思われる図面が残る点である。例えば、現在の本殿は流造であるが、神明造の「本殿」の図もある。拝殿については、正面中央部に軒唐破風が付く形式の図がある。現拝殿には軒唐破風は付いていない。一方、旧拝殿が写る古写真をみると、軒唐破風が付いている。よって、これらが旧拝殿の図面なのか、再建時の計画なのかは、検討の余地がある。今回の調査ではこれらの図面を確認したのみであるが、今後、ほかの建築資料等も精査し、これらの図面の作成の背景などを明らかにしていきたい。

参考文献

河森一浩『近世・近代の宮津の海上交通と廻船—物質文化の検討を中心に—』（『京都府立大学文化遺産叢書 12 「丹後の海」の歴史と文化』、2017 年）

建部恭宣「田辺藩における大工の活動状況と構成」（『京・近江・丹後大工の仕事 近世から近代へ』、思文閣出版、2006 年）

『宮津市史』史料編第 5 巻（1994 年）

表 1 由良神社棟札仮目録

包	資料番号	名称	西暦	法量（総高・肩高・上幅・下幅・厚さ、単位はmm）	木取	材質	仕上げ	備考
1	1	寛永十七年不明建立札	1640	856・（採寸不能）・（採寸不能）・300・11	板目	スギ	台鉋	上端・左側欠損
1	2	断簡		（採寸不能）	柱目か	スギ	礎鉋か	
2	3	延宝元年不明札	1673	755・752・115・95・17	板目	ヒノキ	台鉋	
2	4	御宮建立札		853・840・195・180・10	板目	ヒノキ	台鉋	
3	5	正徳元年熊野三所権現建立札	1711	855・844・205・177・10	板目	ヒノキ	台鉋	
3	6	天保四年御宮地修復札	1833	782・767・160・159・8	板目	ヒノキ	台鉋	
3	7	嘉永六年熊野十二社大権現闌干等修復札	1853	465・455・91・90・11	板目	ヒノキ	台鉋	
3	8	文久二年金毘羅大権現再建札	1862	756・750・159・159・9	板目	ヒノキ	台鉋	
3	9	明治三年熊野社宮殿修理札	1870	696・658・150・150・6	板目	ヒノキ	台鉋	
4	10	宝暦五年熊野十二社大権現修復札	1755	1002・795・151・150・8	板目	ヒノキ	台鉋	左下欠損
4	11	宝暦五年熊野十二社大権現修復札	1755	1003・991・166・164・9	板目	ヒノキ	台鉋	左下欠損
4	12	宝暦五年両社修復寄進札	1755	1006・993・160・166・9	板目	ヒノキ	台鉋	
4	13	寛政六年本堂建立札	1794	940・912・230・225・13	板目	ヒノキ	台鉋	
4	14	昭和二年社務所上棟札	1927	993・957・200・204・10	板目	ヒノキ	台鉋	
5	15	昭和十二年由良神社本殿改築拜殿再建札	1937	1770・1697・305・304・20	板目	ヒノキ	台鉋	本殿外陣内側に立てかけられる